文 化 財 学 習 会

ふ る さ と 探 訪

テーマ　讃岐郷土玩具館と庵治の港まちを歩く

（庵治町創造の森、城岬公園、緑道公園、庵治漁港、
才田獅子頭、讃岐郷土玩具館、皇子神社）

日　時　令和６年１２月２２日（日）

講　師　岩國　聖治（讃岐郷土玩具館　館長）

共　催　高松市文化財保護協会・高松市教育委員会

石と魚と人が奏でる芸術文化のまち庵治町

庵治町は、明治二十三年の市制町村制施行に伴い、香川県山田郡庵治村となり、昭和四十三年の町制施行により庵治町となりました。その後、平成十八年に高松市に編入合併し、高松市庵治町となりました。

町域は東西三・七キロメートル、南北四・三キロメートル、面積は十五・八三平方キロメートルで、四国本土最北端に位置する三方が瀬戸内海に面した風光明媚な半島の町です。沖合いには、ハンセン病の療養施設である国立療養所「大島青松園」のある大島など七つの島々が点在しています。また、南は五剣山を隔てて牟礼町と接しております。

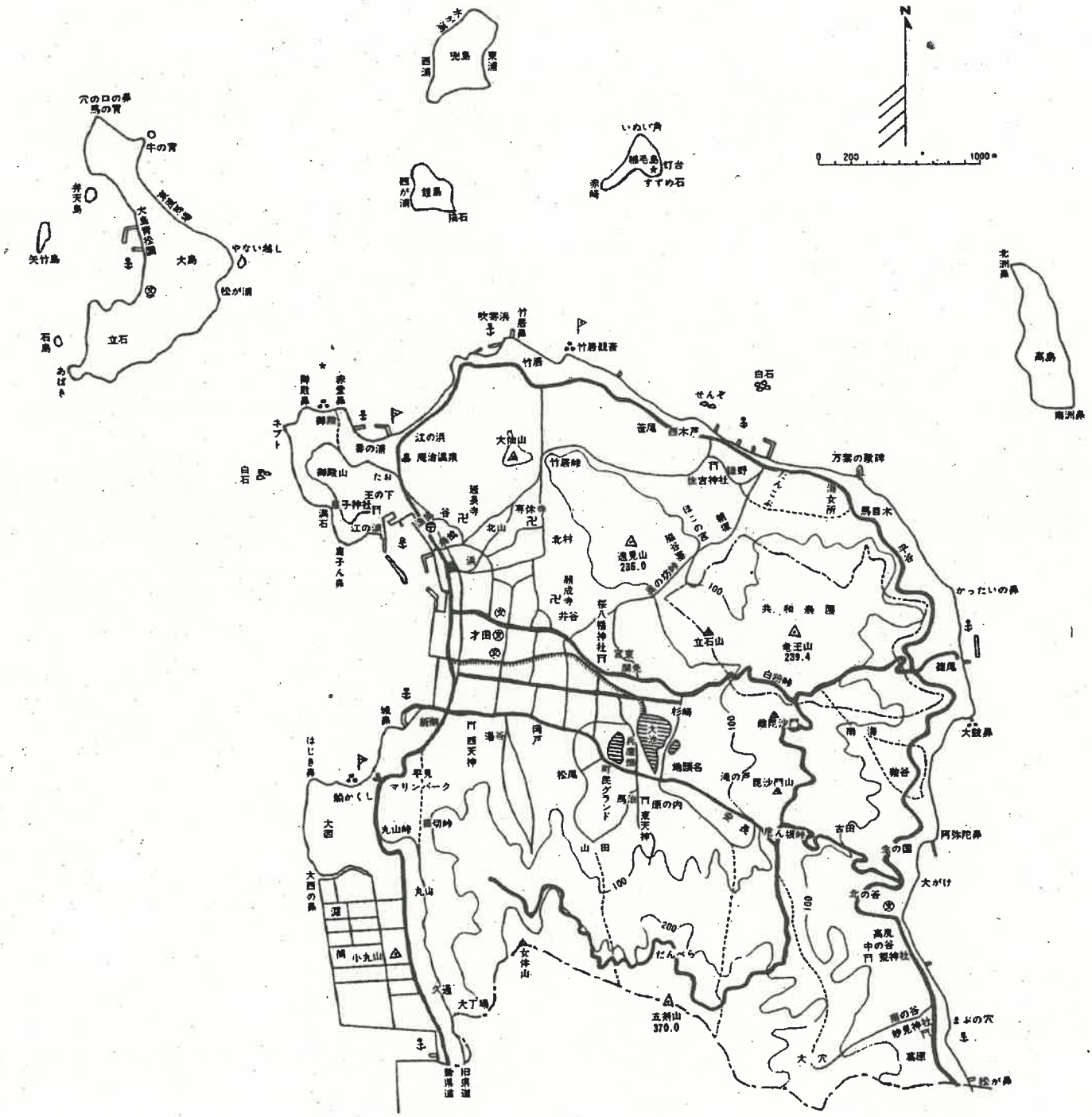
庵治町は古くから「石と魚の町」として栄え、石材業と漁業は、今なお町を支える二大基幹産業です。五剣山の麓から採取される庵治石は、高品質で希少価値が高く、世界一高価な花崗岩と評価されており、国内はもとより海外においてもその名を知られています。また漁業が盛んで魚介類の宝庫となっている瀬戸内海からの漁獲量、生産額は漁船漁業では県下屈指です。

また、源平合戦ゆかりの屋島を間近に臨み、平家の軍船の集結場「船かくし」など、町内には多くの史跡が残っています。さらに最近では、映画「世界の中心で、愛をさけぶ」のロケ地として有名で、県内外から多くの人々が訪れています。

主な観光スポットとして、純愛の聖地庵治観光交流館、太鼓の鼻オートキャンプ場、庵治温泉、城岬公園、あじ竜王山公園などがあります。

映画「世界の中心で、愛をさけぶ」
ロケ地

庵治町全図


かなわ灯標
兜島
西浦
東浦
穴の口の鼻
馬の背
牛の背
弁天島
大島青松園
大島
やない越し
松が浦
矢竹島
立石
石島
あばき
雑島
西が浦
孤石
いぬい鼻
鵜毛島
灯台
すずめ石
赤崎
北洲鼻
高島
南洲鼻
吹雪浜
竹居鼻
竹居観音
竹居
白石
せんず
笠尾
西木戸
万葉の歌碑
海女所
馬目木
御殿鼻
赤堂鼻
御殿
ネブト
白石
御殿山
江の浜
庵治温泉
大仙山
竹居峠
住吉神社
鎧野
王の下
子神社
江の浦
皇子ん鼻
延長寺
専休寺
北山
北村
朝成寺
井谷
桜八幡神社
遠見山
235.0
共和農園
立石山
竜王山
239.4
かったいの鼻
才田
白沢峠
杉崎
城鼻
新浦
西天神
湯谷
岡戸
大池
地蔵名
滝の戸
昆沙門山
南浦
大鉢鼻
はじき鼻
平見
マリンパーク
船かくし
松尾
町民グランド
馬渕
原の内
東天神
山田
丸山峠
雷切峠
大西
大西の鼻
丸山
小丸山
久通
大丁場
旧県道
新県道
女体山
たんべら
五剣山
370.0
古田
阿弥陀鼻
大がけ
北の谷
高原
中の谷
熊神社
南の谷
妙見神社
まぶの穴
高原
大穴
戸松が鼻
0
200
1000m

創造の森

野鳥の森、憩いの森、四季の森などのゾーンに分かれている創造の森は、多くの人が自然に親しめるようにと整備された海辺の森林公園、平成八年に開園しました。

源平合戦のとき、平家が船を隠したといわれる船かくしの南側に位置し、展望台からは瀬戸内海や屋島が臨めます。

テーブルマウンテンにならってテーブルアイランドともいえる屋島の姿が、際立ってよく見えるスポットとなっています。庵治のまちや港も見渡せます。

遊歩道から海辺に下りることもでき、森と海を同時に楽しめます。また、昔、石を切り出していた丁場(採石場)の跡も見学できます。

遊歩道の入口には、種田山頭火の句碑があります。

石をまつり　水のわくところ　　山頭火

創造の森

①能登守の船かくし

庵治浦の南の小さい浦を平氏の猛将能登守教経の船かくしと言います。当時庵治浦全体が平氏水軍の船溜りでした。屋島は島で、歩き渡ることはできないが、流されてきた土砂のため洲があり、大船を通すことは無理だったから、壇の浦、津の村、総門に続く庵治湾に船を置いていました。

「源氏は難波(今の大阪市周辺)から海上を攻奇せる。」と考えた平氏は、鎌野や大島などで、東や北の警戒を怠らず、水軍の本隊をここに置き、庵治北方の海上に迎え討つ準備もしていました。吉備へ、一の谷へ打って出る時もこの沖で船団を整えました。

能登守の船かくし

②米はかり

船隠しの西、屋島に向いた方に小さい浦があって「平家の米はかり」といいます。ここに平家の米倉があって、兵船に米を分けた所だといいます。平家の軍船は千隻もあったというから、あちこちに分かれていて、讃岐平野から集めた米が、ここから浦々、島々に居る兵船や武士、家族たちに配分されました。

③魚見台

冬になるとボラやコノシロなどは群れをなす習性があります。この習性を利用して「沖合」といわれる魚見の名人が、山の見晴らし台から大群を見つけて海上の船団にその位置を指示し、指示を受けた船団が一体となり、魚の大群を包み込んで漁をする方法がとられていました。この漁法は、中高網といわれ、元禄年間（一六八八～一七〇四年）から昭和四十年頃まで行われていました。

魚見台の石積みは、当時「沖合」が利用していたものです。

④鬼石（古丁場）

船かくしの南の山に大きい石がありました。たたみが何枚も敷けるような石で、三・四段重なり合っていたから、石の上に登ることも難しかったそうです。

「あそこには、鬼がおるけん行ったらいかん。」と言われていたので昔から誰も行くものはいなかった。文化十一年（一八一四年）八月二十四日屋島に東照権現さんの造営が始まった頃、「そんな大きい石なら切って出せ。」ということで、鬼石は無くなり、それから鬼石に丁場も出来ました。ここで採石したものは、米はかりの浜から運びました。

鬼石（古丁場）

城岬公園

庵治町の特色を表現した眺めのよい臨海公園で、平成五年に完成しました。目の前に源平の古戦場の屋島が望め、特に海に沈む夕陽の美しさには、だれもが魅せられます。

魚のまち庵治らしく、漁船が設置され、また、石のまち庵治らしく、石のさとフェスティバルで制作された国内外の著名な彫刻家の石彫作品も置かれています。

風景になじんでいる石のテーブルと椅子は、自然のおおらかさとぬくもりがあり、休憩所は木造のあずまや風で素朴な雰囲気となっています。

石をふんだんに使った公衆トイレは、入口は石の一枚板のくり抜き、仕切りは町花のアジサイ、海の幸、漁船などをデザインした壁画に彩られています。洗面所には「花と少女」「かえる」の彫刻が施されています。また、この公園は、夏には「ふれあい祭り庵治」のメイン会場となり、毎年、多くの人で賑わいます。

緑道公園・やすらぎの道

城岬公園のそばの才田・新開地区の臨海幹線道路沿いにある、延長六百メートル、幅十メートルの公園で、平成五年に完成しました。樹木や芝生の緑に、季節の花が咲きそろっています。

石のさとフェスティバルに参加した国内外の著名な彫刻家の作品が十五基設置され、石の芸術作品に触れながら、やすらぎを満喫できる緑道となっており「癒しの散策」コースとなっています。

また、庵治小学校の入学記念として児童が描いた絵を基に石碑三十一基を設置しております。

城岬公園

庵治小学校の入学記念作品

庵治漁港

庵治漁港は、瀬戸内海という恵まれた漁場があり、古くから沿岸漁業が営まれており、中でもイカナゴ込し（こま）網漁業は、香川県下でも屈指の漁獲高となっています。

また静穏な海域を利用した、ハマチ養殖を中心に魚類養殖も盛んに行われています。

庵治町には、庵治漁港、江の浜漁港、竹居漁港、鎌野漁港、篠尾漁港、高尻漁港の六漁港があります。

庵治漁港の種類　第二種　　昭和二十七年七月二十九日指定

庵治漁業協同組合　正組合員　百名　准組合員　八十七名　計　百八十七名

主な漁業種類　　敷網漁業、小型機船底びき網漁業、採藻業、採貝業、刺し網漁業、海面養殖業

主な魚種　いかなご、しらす、のり、いか類、たこ、ふぐ、えび類、かれい、たい類、

貝類、わかめ、あなご、ひらめ、すずき

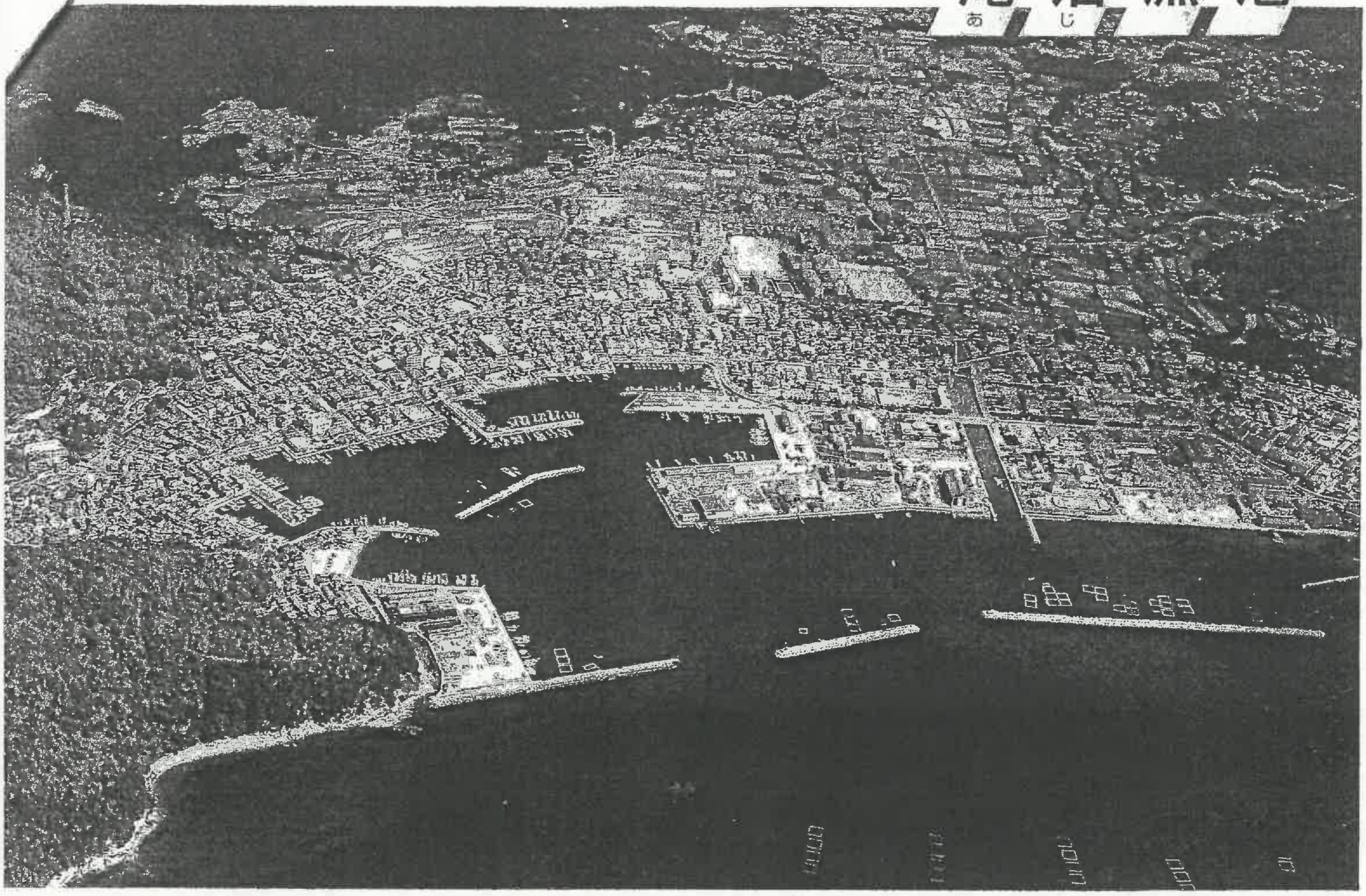
主な養殖漁業　オリーブハマチ、カンパチ、のり、とらふぐ

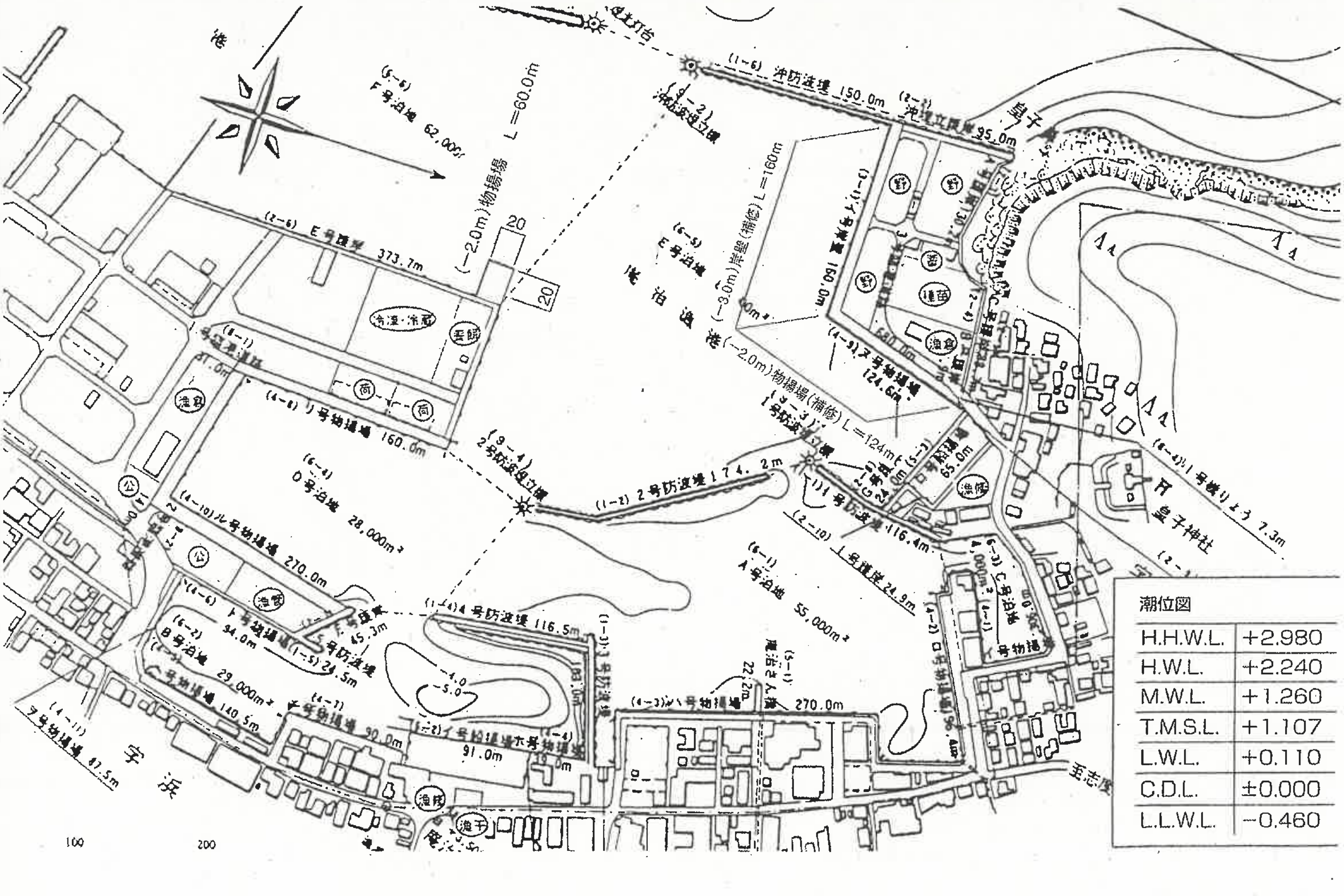
庵治漁港

第 2 種

庵治漁港

あ じ





潮位図	
H.H.W.L.	+2.980
H.W.L.	+2.240
M.W.L.	+1.260
T.M.S.L.	+1.107
L.W.L.	+0.110
C.D.L.	±0.000
L.L.W.L.	−0.460

才田獅子頭（高松市指定有形民俗文化財）

平成十六年九月一日指定。才田岩陰獅子舞において現在も使われています。文政九年（一八二六年）頃、彫刻師の額田喜左衛門が作った木彫りの獅子頭であり、他の自治会の張子の獅子頭とは重さが違い、力の弱い青年では使えません。現在香川県下の祭礼で使用されている毛獅子の頭では最古のものとされています。

江戸時代、額田喜左衛門は高松松平藩の庵治の大番屋敷にいて、丸門の主人として御殿を守り、瀬戸内海を航行する御用のお船を見張る役目をしていたといわれています。木工彫刻に特にすぐれ、八栗寺、屋島寺の「びんずる尊者」、庵治町専休寺経堂にある維摩居士像などは、この人一代の大作と言われています。

才田獅子頭

才田岩陰獅子舞（高松市指定無形民俗文化財）

平成十八年一月四日指定。庵治の才田獅子は「岩陰獅子」と言い、岩の陰から躍り出て舞う獅子を表し、上下左右の激しい動きを伴った元気で勇ましい舞です。庵治の船祭りでは、漁船三隻を横に並べた舞台上で岩陰獅子が舞います。カンカラ、カンカラと言うかん高い太鼓の音で「後使い」が両手を高く上げて入場したり、踊ったりするのが特徴で、これは、天照大神の天の岩戸に入られるのを、神々の神楽をもって引き出す態を表すという、全国的に類例が見あたらない古風な獅子舞です。

大正六・七年には、庵治町の谷・湯谷・原の内自治会へ才田から教えに行き、また小豆島の福田や岩が谷にも教えに行っています。平成十六年十月三日、全国豊かな海づくり大会香川大会で当時の天皇皇后両陛下の御前で獅子舞を披露してからは「天覧獅子」と言われるようになりました。

才田岩陰獅子舞

讃岐郷土玩具館

高松嫁入人形

「お舟はどんどん通町　甘い辛いは塩屋町　愛僧は築地の深妙寺　子供だましの鍛冶屋町」という文句の通り、その昔、鍛冶屋町筋には、嫁入道具店や子供が喜ぶ玩具店が多く並んでいました。

高松地方では嫁入の際に花嫁は手土産ものとして、嫁ぎ先の近所の子供たちに分かち与えるため、土製の人形を持参する風習が昭和初年頃までありました。この習俗は、だいたい讃岐全般に行われていたようでありま す。嫁を迎えた家があると子供たちは「嫁さん見せていたあ、嫁さん見せなデコさんいたあ」と口ぐちに、いわゆる「デコさん」の嫁入人形を貰いに行ったものです。嫁入人形は、土製にして、型抜きしたものを自然乾燥後、胡粉で地塗りをして描彩したもので、張子製は嫁入人形とは言いません。子供たちの筒袖の着物からはみだした嫁入人形が地面に落ちて割れて泣いていると「割れるのは、お目出度いことだ」といってまた人形をくれていました。

種類は多く、狆鯛（ちんたい）・狆（ちん）・鯛戎・鯛持戎・白大黒・千両箱踏大黒・俵踏大黒・金袋抱大黒・金袋引大黒・桃持子供・面持子供・鯉持子供・牛乗童子・立天神・牛乗天神・臥牛・福助などがあります。その中で狆鯛が最も多くわかたれました。狆が鯛を抱いている人形は世俗、イヌマイ、メレタイといいます。イヌマイは、一旦嫁入すれば里に帰らない意味で、イヌに犬を当てはめ、また犬の多産にあやかって解釈しています。メレタイは、お目度いで鯛に結びつけて縁起をかついでいます。また、嫁入人形は高松産ばかりでなく、大阪、京都など他地方の人形も嫁入人形として分かれていた。全国的に珍しい嫁入人形の習俗も時代と共にすたれ大正時代に入ってからカラツ人形が代用され、更にセルロイド人形や学用品が子供たちに分かたれるようになり、嫁入人形の土俗は廃絶しました。

ほーこさん

高松のほーこさんは、はやくから全国的に名高い張子製のオボコ人形です。口碑に、むかし讃岐の殿様時代にオマキという童女が、お姫様のおそば仕えに上っていました。ある時、お姫さまは病にかかられて、なかなか治ら

なかった。オマキは全快祈願をこめて病を身に移し受けて海の離れ島に流されて行き、そこでオマキは死んでしまった。お姫さまは全快した。時の人々は、オマキを誉めたたえてほーこさんと呼びました。

そして、いつの間にかオマキの姿が人形にまでかたどられました。高松地方では、子供が病気になると、このほーこさんを買って、病児にいったん抱かせてから、海に流しものにすると、病気は不思議に全快したと伝えられています。このオマキ伝説を「旅と伝説」という雑誌に加藤増夫氏が発表して、全国的にオマキ伝説が知られるようになりました。「高松のほーこさんが流し雛に通ずる性格をもつ即ち、カタシロ同様に考察できるし、今日の雛人形の源をなすものが、天児であり、高松の庶民階級はほーこさんを雛段に飾っていました。高松のほーこは奉公など当て字を書くが、這子から出ているものであるまいか。」と加藤増夫氏は推察していました。

高松のほーこさんの製作者は、梶川政吉、澤井増徳、澤井ツネ、宮内フサ、梶川竹次郎、宮内マサエ、太田幹子、永井節子、大崎豊五郎、参川キヨ、黒川房吉、乃村定一、乃村タツ子、乃村七重などです。

讃岐郷土玩具館

所蔵品一覧

製作者	玩具名	所蔵数
宮内　フサ 宮内　まさえ 太田　幹子 永井　節子	ほうこうさん　高松張子　つまみ人形　土面子　お面　嫁入人形	500点
大崎　豊五郎	運動人形　那須与一　首人形　お面　ほうこうさん　　高松張子	150点
乃村　定一 乃村　タツ子 乃村　七重	ほうこうさん　高松張子　獅子頭　お面	30点
谷本　祐一 谷本　としえ	念仏踊　五人百姓　ミニ凧　皇子神社の祭船	30点
井上　鷹雄	狸々凧　せみ凧　達磨凧	20点
木下　嘉一	百足凧	5点
磯崎　なつえ	ゴンボ凧　武者絵凧	10点
宮武　正友	讃岐獅子頭　神楽獅子	30点
丸岡　光信 丸岡　トメ	獅子頭	3点
松下　芳夫	ダカ面	5点
岸上　勘助	福まねき　能面人形	10点
久保　梅太郎 滝宮天満宮	うそ鳥	10点
千葉　豊久	太鼓台	30点
田井　清己	張子虎	2点
真鍋　佳則	張子虎	2点
武田　三郎	多度津のガラガラ　メリーゴーランド	5点
金谷　健次郎	白鳥だるま	20点
参川　キヨ	鉢巻だるま　お面	10点
漆原　馬須雄 漆原　千代	八栗だるま　笑い虎　お面　狸　天狗　お福　ひよっとこ	20点
大平　清太郎 大平　広	高松ガラス風鈴	3点
合田　まつ	手まり	2点
十川　巽	苦抜きだるま	2点
伊達　サト	永井だるま	1点
秋山　貞子	花かご	5点
左　甚水	船　鯛網人形	3点
山本　松枝	高松姉様	3点
沢井　増徳 沢井　ツネ	高松張子　座り雛	3点
梶川　竹次郎	高松嫁入人形　　ほうこうさん	5点
佐々木　文世	こんぴら御神馬	3点
江口　時夫	百足凧	1点
河西　次太郎	屋島山カゴ	1点

皇子神社

祭神　宇治稚郎子命（うじのわきいらつこのみこと）

主な建物　本殿、幣殿、拝殿など

境内神社　金毘羅神社　祭神　大国主命（おおくにぬしのみこと）

長田神社　祭神　事代主命（ことしろぬしのみこと）

神明神社　祭神　天照大神（あまてらすおおみかみ）

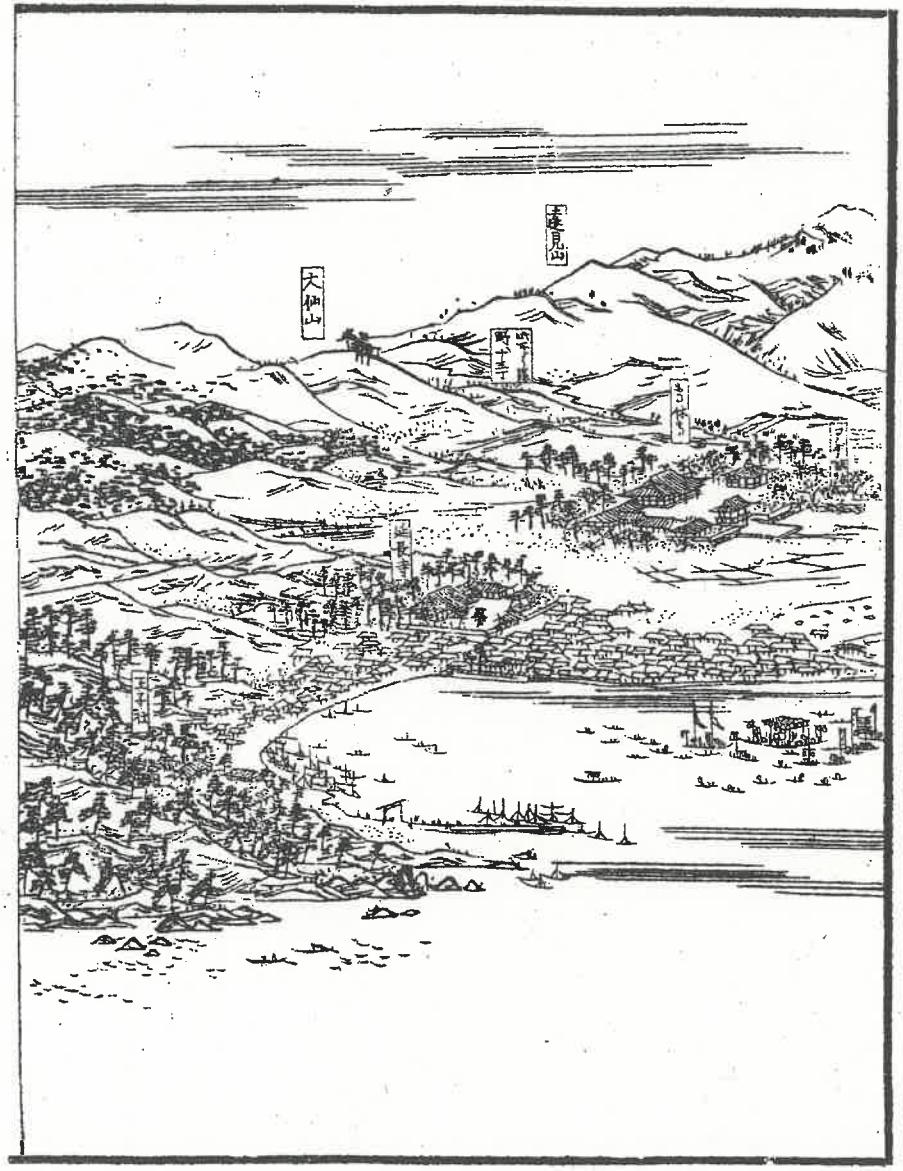
皇子神社

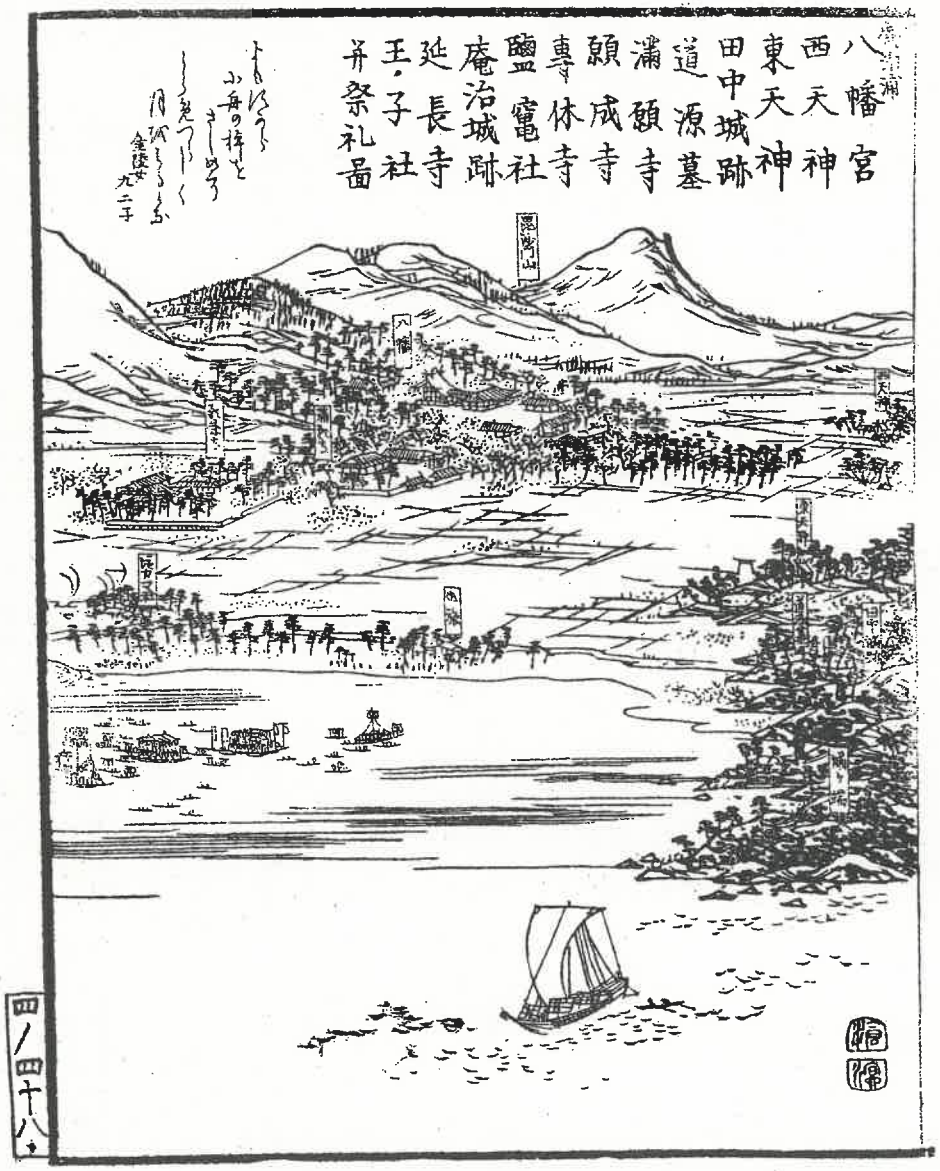
王の下地区にあり、郷社・桜八幡神社の境外摂社で、皇子権現又は皇子宮とも呼ばれます。元和六年（一六二〇）に、庵治村の又左衛門によって、海上の守り神として再興されました。社殿は、初め、江の浦の海浜にありました。その後、庵治の御殿に静養に来ていた高松藩祖・松平頼重公も参拝したといわれ、その縁から現在地に移

され、社殿が改築されています。

皇子神社の夏祭りは、「庵治の船祭り」として有名で、香川県無形民俗文化財に指定されています。祭りの昼宮祭には、神社下の江の浦海岸に漁船三隻を連ねて上部に屋台を組んだ船が五組出ます。神輿を乗せる神輿船一組、獅子舞を乗せる獅子船三組、段尻を乗せる段尻船一組であります。神社境内から階段を降りてきた神輿は神輿船に乗せられ、段尻は江の浦でひとしきり練った後に段尻船に積み込まれます。その後、獅子船の舞台上で獅子舞三頭が同時に舞います。獅子舞が終わると、五組の船は船団を組んで対岸の御旅所へゆっくりと向かいます。江戸時代末頃に屋島の梶原藍渠の描いた「讃岐国名勝図会」にこの夏祭りの船列が書きこまれています。このお祭りは、深夜から明け方まで続く『夜の船祭り』として、江戸時代からほぼ形を変えず現在も続いているお祭りです。

庵治の船祭り


大仙山


八幡宮
西天神
東天神
田中城跡
道源墓
滿願寺
願成寺
專休寺
鹽竈社
庵治城跡
延長寺
玉子社
并祭礼畠
四ノ四十八

《 参考文献 》

●『庵治町史』平成十九年　高松市

●『高松市公式ホームページもっと高松』令和六年　高松市

●『庵治町創造の森散策コースパンフレット』平成九年　庵治町

●『ふるさと探訪　平成二十三年十一月二十七日』　高松市教員委員会

●『ふるさと探訪　平成二十八年十月二十三日』　高松市教育委員会

●『さぬきの郷土玩具　上巻』昭和四十三年　讃岐郷土玩具研究会

●『讃岐国名勝図会』　嘉永七年刊　平成十年復刻版